

編集後記

私は現在一地方大学で、弱電離低温プラズマの産業界への応用をめざした研究・開発を行っています。制御熱核融合プラズマが一日も早く実用化されることを願っている応援団の一人です。編集委員の務めをサボってばかりいましたら、「編集後記の当番です」と事務局からメールが入り、せめて記事くらい何とかしなければと思い、最近感じたことを書くことにしました。

さて、昨年は、日本ばかりでなく、世界中で大きな自然災害が目立った年でした。特に、地震による津波は想像を絶した自然の持つ力の圧倒的な凄まじさを我々に思い知らせました。中学生の頃、チリ津波が東北の太平洋沿岸に押し寄せて来ました。その直前、北上川の河口の水が海に引いてなくなり、理由のわからない人達は川底に取り残された魚をバケツで捕っていたそうです。

スマトラ沖大津波でも同じようなことがあったことをニュースで報じていました。「地震の後で海が引いたら、高台へ逃げろ」という教訓を、一人の人間が生涯に一度か或いは何世代かで一度しか経験できない中で、世代を通して語り継いでいくことの重要性が改めて認識されました。

この世代を超えて、語り継いだり、作り続けたりしなけ

ればならないことの一つに「制御熱核融合プラズマの実用化」があると思います。かつて、私が大学を卒業した時は石油ショックの頃でしたので、ひときわプラズマ・核融合研究に社会の人々の関心が向いていました。しかし、ショックが過ぎると、世代を超えた時間と莫大な費用のかかる「恒久的なエネルギー源の開発」から、人々の心は遠ざかっていくようになりました。しかし、最近、石油埋蔵量の発見量と消費量の関係が逆転し、近い将来における石油枯渇がいよいよ現実味を帯びてきました。私には来たるべきエネルギー危機と津波がダブって見えます。津波が沖から押し寄せてくるのが見えてからでは...

私などはせわしく毎日を追われて過ごしているので、じっくりと1年後、1ヶ月後、1週間後を考えるゆとりがありません。しかし、今日の一日は、今日に果実が得られなくとも、明日の一日のためにと願いながら逆風に耐え暮らしています。現在、日本の「制御熱核融合プラズマ」研究は、ITERの誘致などで大事な局面に立っていると思いますが、どうか不動の精神で未来を切り拓いていただきたいと思います。小さな応援団がいることを忘れないで。

(松本和憲)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	高村 秀一	副 会 長	山中 龍彦 藤原 正巳	常務理事	岡村 昇一 (総務委員長)
理 事	榎戸 武揚 (広報委員長)	岡野 邦彦	尾崎 章 (財務委員長)	田中 和夫 (プログラム委員長)	
	際本 泰士	佐藤浩之助	永見 正幸	堀岡 一彦 (広告委員長)	
	田辺 哲朗	長 照二 (出版委員長)			
	二宮 博正	畠山 力三			
	松岡 啓介 (企画委員長)	吉田 善章 (編集委員長)			
監 事	長谷川 満	藤山 寛			

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター 吉田善章 (東大新領域)

エディター 関子秀樹 (九大)、関 昌弘 (原研)、田中雅慶 (核融合研)、西村博明 (阪大)、福山 淳 (京大)、藤山 寛 (長崎大)
 編集委員 相澤正満 (日大量科研)、安藤利得 (金沢大院理)、井深真治 (東工大院理工)、岩前 敦 (京大院工)、江角直道 (長野高専)、遠藤琢磨 (広大院工)、粕谷俊郎 (同志社大工)、菅野龍太郎 (核融合研)、近藤公伯 (阪大院工)、榎田 創 (産総研)、篠原俊二郎 (九大院総理工)、清水勝宏 (原研那珂)、下妻 隆 (核融合研)、鈴木 哲 (原研那珂)、鈴木千尋 (核融合研)、高杉恵一 (日大量子研)、力石浩孝 (核融合研)、波多江仰紀 (原研那珂)、服部邦彦 (東大院工)、林康明 (京都工繊大)、檜垣浩之 (筑波大プラズマ)、松本和憲 (富山県大工)、南 貴司 (核融合研)、村上定義 (京大院工)、森下和功 (京大エネ理工研)、山本 靖 (京大エネ理工研)、湯上 登 (宇都宮大院工)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第81巻第2号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市中種区内山3丁目1-1 4階

社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: jspf@nifs.ac.jp URL: <http://www.jspf.or.jp/>

印刷 株式会社荒川印刷

2005年(平成17年)2月25日

定価1,365円(本体1,300円)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は(社)プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月、第1金曜日に開かれています。但し、第1金曜日が休日あるいは5日以降の場合はその前週の金曜日に開かれます。